

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月22日(土)午後2時～午後3時34分 古巻公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
1	・ 適正規模・適正配置のモデルとして提示されているのを見ると、渋川南小学校の校舎を利用するパターンがありませんが理由があるのでしょうか。 ・ 渋川南小学校に限らず、統廃合により地域から学校がなくなった場合、避難所はどうになってしまうのか心配です。	渋川南小学校の校舎を使用するパターンの掲載がない理由は、キャパシティの問題です。現在、渋川南小は、豊秋小学校とともに、渋川中学校区に属しています。この場合において、渋川南小学校の小規模校の状態を解消するために、豊秋小学校と統合するとした場合、豊秋小学校の児童数に対して、渋川南小学校の校舎が狭小となります。そのため、渋川南小学校の校舎を使用するパターンの掲載がありません。 これまでに市内で統廃合によって廃校になった学校は4校あります。それらの全てが現在でも指定避難所になっています。今回の適正規模・適正配置により、学校の数が現状の3分の1程度になることが想定されますが、廃校となったと同時に避難所ではなくなることは、今までのことから考えても、考えにくいです。また、施設の解体には費用もかかるため、全てをいっぺんに進めることは難しいと考えております。費用の観点からも、廃校後、すぐに避難所としての機能がなくなるとは考えていません。
2	素案資料P10に記載のあるパターン2において、渋川北小学校を適正配置後の校舎として使用する場合、学校敷地に係る借地の解消ができないという説明がありました。借地の解消は重要な要素なのでしょうか。	渋川北小学校は、渋川の学校の発祥の地であり、地域にとっても象徴的な学校であることは承知しております。これまでの説明会においても、存続への意見をいただきました。現時点では、たたき台としてご提案した2つのモデルで言えば、渋川北小学校同位置を使用する場合、使用しない場合の両論が存在することになります。 借地については、駐車場用地など、渋川北小学校以外の市内の小中学校にも存在します。それらの借地の中でも、渋川北小学校の借地料は大きく、年間600万円程度となっています。その状況を解消すべきかどうか踏まえて、今後の適正規模・適正配置基本計画の策定を進めます。
3	渋川西小学校が廃校になってしまうと、伊香保地区などの子どもたちは金島小学校に通うケースも想定されます。 その場合は、通学バスが運行されるということになるのでしょうか。	渋川市における学校の適正規模・適正配置は、統廃合により進めていくこととなり、今よりも通学距離が増えるケースが多くなることを想定しています。 通学バスの運行に関しましては、現状でも距離の基準を設けて運用していますが、統合先の学校の方向性が定まれば、通学バスの運行に関しても議論を進められるものと考えています。
4	・ 今回、素案として提示された2つのモデルについては、「市として確定したもの」ではなく、素案資料P13やP23に「サンプル配置」とあるように、各パターン(素案資料P9～P12、P19～P22)も含めて、考え方の(案)として認識すればよいのでしょうか。 ・ 今回、素案として提示された2つのモデルの折衷案で検討エリアを設定するということも可能性があるのでしょうか。	今回お示した素案は、皆さんから市内小中学校の適正規模・適正配置にご意見をいただくための参考モデルとなります。そのため、2つのモデルの折衷案でエリア設定することも考えられます。なお、エリア設定を検討する上では、子どもたちが「自分の地域だな」と思えるかどうかという「地域の学校であるという」要素も非常に重要な要素です。 今後の説明会や学校運営協議会の委員さんとの懇談会、各種アンケートなどで皆さんからのご意見を伺いながら、子どもたちの学びの環境をより良くするためにはどうしたら良いのかを念頭に、今年度に策定する「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」に掲載する統廃合の(案)を検討します。
5	素案資料P3「1 検討の考え方」3.(1)に、「単位自治会の分割は想定しません。」と原則が記載されています。適正配置が進めば、居住地によって指定された学校よりも自宅に近い学校ができることも想定されます。自治会の境界に住む人などの場合には、学校の選択制も考えられると思います。	学校の選択制では、「居住地に近い学校に行きたい」というケースや、義務教育学校を設置した場合に区域内の人が「義務教育学校に行きたくない」パターンと区域外の人が「義務教育学校に行きたい」パターンなどが想定されます。 全市的に「学校の選択制」を導入すると、一部の学校に子どもが集中してしまったり、区域外の学校に通う子どもにとっての「自分の地域」の考え方や関わり方などが難しくなることも想定されるため、選択制の導入は検討すべき要素と捉えているものの、一定の基準を設けるなどの制度設計が必要になると考えています。 他自治体の先行事例なども参考にしながら、市の考え方を整理したいと思います。

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月22日(土)午後2時～午後3時34分 古巻公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
6	洪川市内にこだわらず、北群馬地区での適正規模・適正配置は検討しないのでしょうか。吉岡町や榛東村を含めた検討もできると思います。	国の「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引(平成27年策定)」が改訂され、その中には自治体が周辺自治体を巻き込んで適正規模・適正配置を検討する「広域化」が示されました。これは、今後更に1小学校1中学校の自治体が増加すると、その自治体単独での検討が難しくなることを踏まえて整理されたものと認識しています。 洪川市における小中学校の適正規模・適正配置は、現23校(小学校14校・中学校9校)への対応となり、現時点では、近隣自治体との広域での検討は進んでいません。
7	バス通学が増えることが想定されますが、バスの運転手不足という話も聞きます。その辺りは、今回の検討でどのように考えているのでしょうか。	バスの運転手の確保(スクールバスの運行)は課題のひとつと考えています。適正規模・適正配置後のスクールバスの運行については、学校の集約により、対象となる子どもの数や路線数などが、現行のスクールバスの運行状況よりも増加します。 今年度策定する「洪川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」により、一定の統廃合の形や時期が見えますので、スクールバスの調整につきましても、計画に基づき検討を進めていきます。 現時点では、現行のバス事業者や他自治体の先行事例からの情報収集や研究を進めることとなります。
8	・ 洪川北小学校、洪川南小学校を中心としたパターンの検討はできないのでしょうか。地域住民として寂しい思いがあります。 ・ 洪川北中学校の位置に小学校を新設することは考えられませんか。 ・ 学校がそばにあるから家を建てようという人がいます。旧洪川地域の空洞化が進んでしまうと思います。	各地域の皆さんから、それぞれの地域への気持ちの意見をいただいています。学校の適正規模・適正配置を進める上では、「子どもの教育の部分」「地域の気持ちの部分」「費用の部分」など、さまざまな要素をもとに検討したいと思っています。 「洪川北中学校の位置に小学校の新設ができないか」というご意見のような、お示したパターンにはない考えも、パターンとして除外されるものではありません。数多くある検討要素のひとつとさせていただきます。
9	素案では、赤城地区に1校も学校がありません。その影響で人口が減ってしまう心配があります。	
10	義務教育なので、集団生活の中で社会のルールを学ぶためにも、児童生徒数はそれなりの人数が必要だと思います。その集団生活の中で基礎学力を身につけること、異学年交流も大切だと思います。将来に希望が持てる学校教育をしてほしいと思っています。 中学生が、人数が少なくて部活動(競技)を選べない、やりたいことができない状況があること聞き、かわいそうに思いました。学校生活のモチベーションが保てないのではないのでしょうか。	適正規模・適正配置を進める発端には、「子どもの教育環境の改善」や「子どもの選択肢を確保すること」があります。それには、一定の規模(人数)が必要になります。また学力や心の成長には、一定の学級数がいるという考えもあります。 それらを実現する中で、地域のつながりも要素に含め、「教育のこと」「まちづくりのこと」「行政運営のこと」のバランスをとりながら、子どもたちが望ましい環境で学び続けることができるよう、学校の適正規模・適正配置を進める必要があると考えています。
11	学校の適正規模・適正配置については、子どもからしたら大人の考えで話が進んでいくことになります。 学校が遠くなったり、地域から学校がなくなることを心配する考えもありますが、子どもからしたら、今まで遊びに行けなかった地域に遊びに行けたり、友達が増えたり、自分の地域が広がることを喜ぶのではないのでしょうか。 合併前の旧市町村の話が出ますが、「合併後の今の洪川市」に郷土愛を持ってもらうことが大切だと思います。その気持ちを持った子どもたちが、将来的に洪川市に戻ってこれるような、そんな学校づくりをしてもらいたいです。	
12	学校施設の老朽化の話がありましたが、使えるものは使って、使えなくなった時の状況に合わせて、改築などを検討してもらいたいです。 適正規模・適正配置の計画が長期間になるため、社会の急速な変化を考えると、何十年先のことを計画しておくのではなく、この先の市の財政を考えた時に、今お金を使うべきところはどこなのかをよく考える必要があると思います。	

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月22日(土)午後2時～午後3時34分 古巻公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
13	説明会への保護者の参加が少ない状況も踏まえて、学校の適正規模・適正配置を進める上では、これから子どもを学校に通わせる人たち、これから子育てをする人たちの意見をアンケートなどで聞いて欲しいです。	1回目の説明会への保護者の方の参加状況を踏まえ、説明会の開催時間などを調整する対応をしています。 加えて、今後、児童生徒の保護者を対象としたアンケートを実施できるよう調整しております。
14	この議題は、最終的にどのように決まるのでしょうか。市主導なのでしょうか。住民投票なのでしょうか。	現在は、説明会等により保護者や地域住民等の多様な関係者の意見を伺いながら、地域とともに学校の適正規模化の方策を検討している段階にあります。 検討結果は、外部検討委員会の中で有識者等の意見を踏まえた全体調整を行い、最終的に「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画(案)」として整理します。
15	説明会で出された意見や考えを今後の検討に十分反映してください。	基本計画(案)を12月以降に公表し、市民意見公募を経て、今年度中に基本計画として策定する予定です。
16	決まる前でも決まった後でも、学校の保護者に対する説明を学校でしてもらいたい(授業参観などを利用するなどして)。出張講座など。幼稚園、保育園の保護者も含めて検討してもらいたい。	説明会は、どなたでも参加いただけることとしていますが、いただいた意見も参考にさせていただき、より多くの方に「学校の適正規模・適正配置」を考えてもらいたいと考えています。
17	働いている保護者が多く、それに合わせた通学時間になるか。	「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本計画」を策定するに当たり、「渋川市立小中学校適正規模・適正配置基本方針」で定める基準に基づき、適切な通学時間となるよう通学方法などを検討いたします。
18	保護者は災害や害獣により送迎せざるを得ないことに敏感になっています。コロナや防犯についても不安です。	
19	1学年1クラスにはメリット、デメリットがあります。スマホやYouTube世代となる子どもは過保護になりやすくなっていると思います。	—
20	新しい校舎を作っても、使用が少なくなるのはどうかなとも思います(現、公民館・図書館などの使用者の少なさをみています)。	—
21	年配の方が増えているので、安全な場所を作るべきだと思います。	学校の適正規模・適正配置を進める上で、「まちづくりのこと」も検討の要素と捉えています。公民館や図書館機能を持った学校の複合施設化等による地域住民の居場所づくりの視点も持った検討とします。
22	次回の説明会では、義務教育学校についてのメリット・デメリットの説明が欲しいです。	他自治体の義務教育学校の事例では、以下のようなメリット・デメリットが挙げられています。 ＜メリット＞児童生徒の発達段階ごとの教育活動が行いやすく、異学年交流による児童生徒の相互成長が図れる。 ＜デメリット＞義務教育学校の特性を活かすための教員負担(時間と労力)の増加。 本市での義務教育学校の導入の可能性を含めて研究をしたいと考えています。

市内小中学校の適正規模・適正配置の説明会(第2回)

8月22日(土)午後2時～午後3時34分 古巻公民館

No.	いただいた意見等の概要	市の考え方
23	通学バスの問題は適正規模・適正配置の検討が進む進まないに関わらず、解決・対策が必要だと思います。	No. 7と同様
24	学区外への選択制は賛成。	No. 5と同様